

コウライアイサ江西省弋陽県で発見

劉運珍・賈道江

訳 福井和二

コウライアイサ [中華秋沙鴨] (*Mergus squamatus*) は、国家1級保護鳥類、またの名を鱗肋秋沙鴨、俗称“魚鴨子”と言う。分布域は狭く、数もきわめて少なく、絶滅危惧種とされている。去年の冬、江西省弋陽県域内の信江*で初めてコウライアイサの群を発見、しかも総数百余羽、我が国で初めての最大級越冬群である。同時に完全な成鳥の標本を採集した。

コウライアイサは非常に数が少なく、したがって標本もきわめて少ない。1864年に英国の学者が我が国で採集した1羽の標本によって命名された。この標本は今日英国の博物館に保存されている。我が国の標本も数えるほどしかない。

雄のコウライアイサは頭から頸が光沢のある緑色を帯びた黒で、頭頂に100mmの冠毛がある。頸の下部から胸、および腹部全体が白色。両脇は黒色の鱗片斑がある。

雌は頭から頸が茶褐色で、65mmの冠毛があり、背後部から腰、上尾筒にかけて灰褐色で、白色の横紋がある。

信江は鄱陽湖水系の5大河の一つでコウライアイサが越冬していたのは、河口より10km上流のダム湖で、兩岸は絶好の森林に覆われ、工業汚染が無く、川底の石が見えるほど水が澄んでいる。下流には亀峰という景勝地があり、遙か10kmの彼方に望まれる。流れには魚介が多く、コウライアイサの豊かな餌となっている。ここには、カルガモ、マガモ、オナガガモ、マガン等多くが越冬し、ときには数千羽を数えることもある。

コウライアイサの繁殖期は4~6月で、我が国では黒竜江省の小興安嶺、鏡泊湖と吉林省の長白山地域でわずかに見られ、ほかにシベリア東南部で繁殖している。深い森林の溪流で営巣し、ナガバドロ、シナノキ、カシワ、ハルニレ等の老木にできた天然樹洞を利用している。

コウライアイサは毎日夜が明けると群をなして上空を旋回し、少しでも危険な状況があれば、遠くへ飛び去ってしてしまうので、越冬地の安全は十分に注意しなければならない。

訳注

* 弋陽県；鄱陽湖の南東方向、鄱陽湖に流れ込む信江の上流110kmほどのところにある。